

○ 総務文教分野

区分	☒ 新規 ☐ 再提案 (. . 第 回総会 ; 市)		
種類	☐ 現行制度の改善又は拡充を求めるもの ☐ 新たな施策の要望又は提案を求めるもの ☐ 特に市町村への財政支援策等を求めるもの ☒ その他 (県の主体的な取組を求めるもの)		分野 ☒ 総務文教 ☐ 社会環境 ☐ 経済 ☐ 危機管理建設
要望先	☐ 国 担当省庁 ☒ 県 担当部局 企画振興部 ☐ その他 名 称		
件名	13 信州まつもと空港の全県的利用促進に向けた二次交通の充実について		
提案市	松本市、上田市、大町市、塩尻市、安曇野市		
提案要旨	令和元年10月27日から信州まつもと空港には神戸空港への定期運航路線が開設され、期間限定の大阪・札幌丘珠線と合わせて12便（定期便通常時8便）となった。また、国際チャーター便も多数就航し、利用者も100万人に達する勢いとなり、まさに「信州の空の玄関口」となっている。 一方で、観光客には空港から目的地まで、県民には空港までの交通手段の確保が不安要素となっている。県の「空の玄関口であり交通ネットワークの核」として今後の更なる利用促進には、県内主要都市や主要観光拠点を結ぶ二次交通の充実が最重要課題であり、県の主体的な取組を要望する。		
提案理由	1 信州まつもと空港の二次交通は、松本駅を往復するエアポートシャトルと、安曇野・大北方面の北アルプス山麓を往復する信州まつもと空港シャトル便のみで、他の地方空港に比べ極めて脆弱である。 2 松本駅へ向かうエアポートシャトルで運行されているのは、路線バスで使用されている車両のため、専用の荷物収納庫もなく、多くの荷物を持つ観光客等に対する思いやりに欠けている。 3 信州まつもと空港は、県営空港であり、その利用促進とそれにつながる二次交通の確保は、空港設置管理者の県の責務と考える。		
現況及び課題等	1 二次交通の赤字分は、松本駅エアポートシャトルは全県組織である信州まつもと空港利用促進協議会とFDAが折半で、北アルプス山麓を往復する信州まつもと空港シャトル便は大糸線ゆう浪漫委員会の構成自治体が補填しており、県独自の二次交通確保策がない状況である。 2 利用者数が増加しているものの、運行経費がそれに比例して増加し、運営を支えている各自治体の財政支援だけでは今後運営できない。 3 松本駅エアポートシャトルの運行会社は、特に観光トップシーズンの運行に難色を示している。 4 松本市・上田市で運行している松本バスターミナルと上田駅を結ぶ直行バスの空港乗入について、運行会社が難色を示している。 5 二次交通については、運営及び情報の一元化が必要である。		
関係法令			